

おやつのかんづ - ちよつとひとやすみ -

—マイナーチェンジ—

NO. 9



あの大きなタレントさんが、番組の中で話していたことで、とても印象に残っていることがあります。「小さい頃は、一年がとても長く感じて、夏休みなんか思い出がたくさん詰まっていたのに、大人になるに連れて、毎日一年もものすごく早く感じてしまう。なぜ？って、6歳の子は、自分の6年間を6等分するのだから、一年はそれなりの大きさに。でも、40歳の方は、40年を40等分するのだから、ひとつのピースが小さく感じる。昨日と今日と明日があんまり変わりなくて、一年が早く感じるのはそのためなんだってさ。」なるほど、そう言われると解りやすいなと思いました。そのうちやろうと思って、気が付いたら一年経っちゃったなんてこと、たくさん出てきますからね。子ども達と一緒に過ごしていくなかで、これと似たような感覚が、邪魔をしたり背中を押してくれたりすることがあります。

ひとつひとつのことを身に付けていくのに時間がかかる子の場合、“毎日コツコツ、手を変えず品を変えず”というのが対応の基本です。少しずつ積み上げていき、小さな育ちを確かめながら、次の小さな目標設定をしていくことで、大きな手応えを感じることができます。まさに“継続は力なり”です。

ところが、時々、子どもの育ちに大人が付いていけないことがあります。子どもができるようになっていくことにも習慣的に大人が手を貸してしまう、なんてことはありませんか？。大人がどのくらい“待てる”かどうかポイントになるのですが、“待つ”って言うほど簡単なもんじゃないですね。手を出したほうがさっさと進められるし、待ちすぎると間延びしてしまうし。子どものコンディションだって日によって違いますから、あえて手伝ったほうが豊かになる場面もあります。

“待つ”場面は主に3つです。ひとつは、子どもがこちらに気持ちを向けようとするまで待つ時間。もうひとつは、取りかかりを見守る時間。三つめは、最後のフィニッシュを任せる時間。さて、どこからなら始められそうですか？

今までの関わり方のままだと、子どもが素直に感じなくなってくることもあります。いわゆる、“ダメしがきかなくなる”“素直に感じなくなる”“できないけど自分でやりたがる”ってやつです。大人のペースで進めてしまえば時間もかからず要領よくできます。ところが、子どもに“遊びこむ”“選ぼうとする”“トライしようとする”気持ちが芽生えてくると、そう上手くは進めなくなります。そんなときは、時間のかけどころをどこに作るかを考えてみてください。

例えば、次に行くところを見せて聞かせてゆっくり説明する時間、どっちにしようか一緒に考える時間、切り替えをよくするために一緒に遊びこむ時間、やりたい気持ちを尊重しつつ程よく手伝う時間、といったところでしょうか。もちろん、忙しい毎日ですので、いつもいつもというわけにはいきませんが、付き合えそうな場面で腹を据えて向き合っていくと、回り道のように見えても、じつは近道だったんだと感じると思います。

どちらにしても、大きな変化ではないので、何かをガラッと変えることはないのですが、大人がマイナーチェンジできると、きっと、見える景色が変わりますよ。(H29. 2) K

